

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年4月22日 (2010.4.22)

【公表番号】特表2009-523832(P2009-523832A)

【公表日】平成21年6月25日 (2009.6.25)

【年通号数】公開・登録公報2009-025

【出願番号】特願2008-551573(P2008-551573)

【国際特許分類】

A 6 1 K 33/00 (2006.01)

A 6 1 P 21/00 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/08 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 33/20 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 31/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 33/00

A 6 1 P 21/00

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 37/08

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 33/20

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 31/10

【手続補正書】

【提出日】平成22年3月8日 (2010.3.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

腹膜炎の予防又は治療のための薬剤を製造するための酸化還元電位水溶液の使用であって、該溶液は少なくとも約 2 4 時間安定であり、且つ該溶液は約 6 . 4 から約 7 . 8 の pH を有する、使用。

【請求項 2】

酸化還元電位水溶液が少なくとも約 1 週間安定である、請求項 1 記載の使用。

【請求項 3】

酸化還元電位水溶液の pH が、約 7 . 4 から約 7 . 6 である、請求項 1 記載の使用。

【請求項 4】

酸化還元電位水溶液が、該溶液の約 1 0 体積 % から約 5 0 体積 % の量でカソード水を含み、且つ、該溶液の約 5 0 体積 % から約 9 0 体積 % の量でアノード水を含む、請求項 1 記

載の使用。

【請求項 5】

酸化還元電位水溶液が、次亜塩素酸、次亜塩素酸イオン、次亜塩素酸ナトリウム、亜塩素酸イオン、塩化物イオン、溶解塩素ガス、1 以上の超酸化水種、二酸化塩素及びそれらの組み合わせからなる群から選択される少なくとも 1 つの遊離塩素種を含む、請求項 1 記載の使用。

【請求項 6】

酸化還元電位水溶液が、約 15 ppm から約 35 ppm の次亜塩素酸及び約 25 ppm から約 50 ppm の次亜塩素酸ナトリウムを含み；約 6.2 から約 7.8 の pH を有し；且つ、該溶液は少なくとも 1 週間安定である、請求項 1 記載の使用。

【請求項 7】

酸化還元電位水溶液が、約 -400 mV から約 +1300 mV の間の電位を有する、請求項 1 記載の使用。

【請求項 8】

薬剤が、抗感染剤及び抗炎症剤からなる群から選択される、1 以上のさらなる治療剤を更に含む、請求項 1 記載の使用。

【請求項 9】

抗感染剤が抗菌剤である、請求項 8 記載の使用。

【請求項 10】

抗感染剤が抗生物質である、請求項 8 記載の使用。

【請求項 11】

抗炎症剤が、ステロイド系抗炎症薬、非ステロイド系抗炎症薬及びそれらの組み合わせからなる群から選択される、請求項 8 記載の使用。

【請求項 12】

薬剤が、少なくとも 1 つの抗生物質及び少なくとも 1 つの抗炎症剤を更に含む、請求項 8 記載の使用。